



鶴ヶ島の雑木林の将来

副代表 佐野 英樹

鶴ヶ島市の里山（樹林地）は年間3～4haの割合で減少しています。市民の森も、相続や都市計画等により減少しています。このような緑の減少は行政の取り組むべき大きな課題ですが、ここでは、鶴ヶ島の雑木林の将来を考えてみます。

武蔵野の雑木林は自然林ではありません、長年にわたって畑作農民によって維持管理されて作り上げられた人工林です。農用林や営農林と呼ばれることもあります。この林のクヌギやコナラは薪や炭となり、落ち葉はたい肥として利用されました。十数年から二十年の間隔で部分的に皆伐し、林床に日光を導き、株本からの「ひこばえ」の発生と成長を促します、これが「萌芽更新」で株立ちの若木からなる雑木林が維持されます。雑という字を嫌って、農用林や営農林が使われることがあります。

私は5年程前に高倉の森からクヌギのドングリを10ヶ持ち帰り植えました。そのうち8ヶが発芽したので、二年ほど鉢で育て、藤金の森の少し開けた日照がありそうなところに植えてみました。残念ながら枯れることはないものの、全く成長しません。素人の思い付きは一蹴されました。一方で、わがクラブの活動として太田ヶ谷の森の広場に植えた木はほとんど枯れることなく成長しています。ドングリが落ちて芽吹くことがあっても十分な日照がないと成長しないようです。

鶴ヶ島の雑木林は萌芽更新を基本とする維持管理を受けなくなってから少なくとも五十年は経っているでしょう。今では、木々は高木化してまばらになり、枯れ木もあり、林床は笹に覆われています。さらに放置すれば、木々は枯れて無くなり、笹藪となり、次に常緑広葉樹（照葉樹）が侵入してくるでしょう。このように放置された林をどのような樹林地に変えてゆくのが良いのでしょうか。

私は、武蔵野の雑木林にこだわらずに、クヌギやコナラだけではなく桜、楓、銀杏、欒のようないろいろうる葉広葉樹や花や実が楽しめる照葉樹もある住宅地の中の、見て楽しく歩いて楽しい平地林を目指してはどうかと思っています。

ひよっこの独り言

金 隆

里山サポートクラブを知ったのは、2年ほど前のことかと思います。市の広報で太田ヶ谷運動場傍にグリーンパークがあることを知り出かけた時のことでした。黄色のジャンパーを身にまとった敷地内で整備作業を行っている集団を見かけ、少しの間お話をさせていただきました。

定年後の運動不足解消に何かボランティア活動でもとの安易な気持ちで、昨年10月市役所で開催された「地域デビューきっかけ広場」に出かけました。そこで団体を知り、その後活動時の片隅に加えさせていたでいております。

市民の森整備へ少し参加してみようかとの軽いものだったため、活動は予想以上に幅広く専門的な技術が必要でついてゆくのなかなか大変です。

山登り、バーベキューと戸外を楽しんできました。残り少ない年月、里山活動もそんな楽しみの一つとなったら少し充実するかなあ...

加入後半年。鶴ヶ島の里山維持にいくらかでもお役立ちができるよう細く長く、微力ですが参加してまいりたいと思います。



1月～3月の主な活動

毎年、新年は高倉の森のご神木に注連縄を張り、幹の根元にお神酒を注いでクラブの活動の安全を祈願して仕事始めとしています。今年は元旦に能登の地震が有り翌日には羽田空港で航空機の衝突事故があり、作業の安全へ誓いを新たにしました。

鶴ヶ島ほっこり村の入居者のためのベンチ第2弾が漸く完成しほっこり村の搬入しました。今回のベンチはベットとして利用できるので病室からそのまま屋外に出て楽しめるようになりました。市民の森で巨木化した樹木をこのように利用する意義は大変貴重です。これに要した延べ時間は大変のものでしたが需要があればこれからも挑戦する意義を感じます。

鶴ヶ島市に工場を建設する企業が増えています。その内の一社が市に寄贈されて、仮植えしていた80本ほどの樹木の移植が完了しました。この作業はグリーンパークを整備していこうと、地元、環境団体、市が結成したグラウンドワークの運営組織で里山サポートクラブも参加団体として参加しています。旧農業大学の跡地も段々に形ができてきましたが息の長い事業です。

藤小学校での焼芋作りは別に紹介します。



1月～3月 活動実施

- 1/10(水) 高倉:ご神木注連縄張と森の整備
- 1/20(土) 木工教室:ベンチ作り
- 1/27(土) 藤金の森の整備
- 2/03(土) 五味ヶ谷の森の整備
- 2/10(土) 桜移植作業
- 2/24(土) 木工教室:ベンチ作り
- 3/08(金) 藤小学校:焼芋作りと桜の植樹
- 3/16(土) 仲良しっ子クラブ 農園行事協力
- 3/22(土) ベンチ搬入
- 3/23(土) 太田ヶ谷の森

4月～7月 活動計画 (案)

- 4/20(土) 結桜まつり・市民の森整備
 - 4/27(土) タケノコ掘り大会
 - 4/28(日) 蛍放虫
 - 5/5(金) タケノコ掘り大会
 - 5/8(水) 桜新芽採取
 - 5/19(日) 大谷川クリーン大作戦
 - 5/25(土) 飯盛川清流復活大作戦
 - 6/1(土) 環境祭り
 - 6/2(日) 高倉市民の森里山体験会
 - 6/15(土) 藤金市民の森整備
 - 7/10(水) 会員バーベキュー
 - 7/22(土) ボランティア体験会 IN 五味ヶ谷
- スケジュールは雨などで変更が有りますので、当クラブ HP で確認下さい。

最近のトピックス

■鶴ヶ島仲良しっ子クラブの活動

当クラブが実施している里山体験会は大勢の子供と大人が森を賑わせています。この日の森は大変安全な時空ですので、これを利用して仲良しっ子クラブでは独自の活動をしています。昨年は初めての単独企画として農村センターでソーメン流しを実施し私たちとも大いに交流を持ちました。最近では大森農園で野外で火おこしや野菜の収穫、炊事と昼食をして親子で野外活動を楽しんでいます。野菜嫌いな子が菜の花のお浸しを恐る恐る口にしみ込んだ時は青空の下、広い野原ならではの出来事でした。

■進出企業から寄贈された樹木の移植作業が完了

鶴ヶ島市の工場を建設する企業が増えています。その内の一社が市に寄贈され仮植えしていた80本ほどの樹木の移植が完了しました。この作業は旧農業大学の跡地にできたグリーンパークを森に育てようとして結成されたグラウンドワークの事業で我々も会員団体として参加しています。

■続々と冊子を発行

「鶴ヶ島の里山」(20年間の里山の推移から見た鶴ヶ島の里山)——鶴ヶ島町史の中に次のように記されている。鶴ヶ島町の森は、江戸時代中期までは原野が多かったが、中期以降原野が森林に増加し始めた。この傾向は、「昭和に入ると森林減少に転じ、昭和35年当時、都市化に伴う森林破壊が始まった」とある。昭和35年(1960年)の林地は248町歩、田116町歩、畑975町歩、昭和60年(1985年)には林地は147町歩、田18町歩、畑603町歩に減少である。更に2020年に林地は89.4ha(88.7町歩)に減少している。この傾向に拍車がかかる今日、人間が生きていく上で大切な森をどの様にして次の世代に森を継承し、活用していくかの課題を豊富な資料で解説しています。(冊子は無料です。会員又は事務局にお問い合わせ下さい。)

昨年7月よりNPO法人より支援を受けてきたプログラムが一段落しました。

このプログラムは業界全体のIT デジタルを底上げするために企画されたと思いますが、当クラブが選抜されたのは、推測するに、ある程度のIT 技術を有してはいるが、完成度が中途半端であるため、基本的な部分を支援することによる効果が望める環境の団体であったように思います。即ち、IT 人材が豊富な団体では支援する必要はなく、逆にIT 技術が乏しいところは支援が大変で敬遠される傾向にあったのではないかと思います。

さて、運よく支援を受けることができた当クラブの弱点といえば、①データの管理がバラバラで担当者不在時のデータ消滅の危険性があること。また、②現行のメール送信ではアドレスが公開されてしまうため悪用される危険性があり、対策が必要であること。更に、③ホームページ画面がスマホでは字が小さくて見づらい点も懸案の一つでした。要は当クラブにおける活動の広報、アピール等が時代に乗り切れていない状態で、データの管理能力についても旧態以前のまま、高齢化による後継者問題もあきらめムードであり、若手の会員増員が喫緊の課題と言える状態でした。

それに対する今回のIT プログラムでは、①データのクラウド化を図り google-drive とさくらインターネットとの設定含め、データの一元化を図りました。また、②メールの送信も管理者設定で一括管理、アドレスは非公開での送信ができるように指導を受け、改善することができました。③ホームページもスマホ用に改良するよう助言され、特に新参加者が活動に参加しやすい画面（日程、場所の明確化）へと構築することができ、従来のパソコン用ホームページにもつながるような方式で改善できました。

更に、facebook、instagram、twitter 等の SNS をうまく活用することで、当クラブの活動が拡散できる可能性を指摘され、QR コードの表示につながりました。イベントの風景を投稿してもらうことが友達の友達にも紹介され、活動に賛同を得られる仕組みなども、成果として残すことができました。

昨年の国土交通大臣の受賞等も、当クラブの20年にわたる活動記録がホームページに掲載され、蓄積された刊行物の発刊資料等が外部からも容易に閲覧できる状態にあったことなど、IT デジタルの道具として広く利用されるようになってきたと思われます。これからも時流に乗った適切なICT（情報通信技術）が当クラブの活路になっていくものと信じています。

今回のIT デジタル強化プログラで支援をしていただいた細見様、大森様に深く感謝をするとともに、今後ともご指導を頂きたいとよろしくお願い申し上げます。



8:19 59%

satoyamasupport.com

NPO法人 つるがしま 里山 サポート クラブ パソコン版

ボランティア活動に参加

	月間活動計画表	年間活動計画表
1/10 (水)	高倉の森 9:00	・整備、新年会
1/20 (土)	藤金の倉庫 9:00	・木工教室、焼き芋
1/27 (土)	藤金の森 9:00	・竹林整備、枯れ木伐採
活動報告	12/26	緑の都市賞・知事報告
活動実績	1/10	高倉の森・新年会



NPO法人 つるがしま 里山 サポート クラブ

350-2201 埼玉県越谷市富士見4-15-2-A103
TEL:080-3588-7868

スマホ版へ

里山サポート概要

活動計画案内

活動実績

里山通信

活動情報発信誌

新規会員登録中

活動の実績のお知らせ

- 1/20 藤金の倉庫で木工教室を開催しました。ベンチ2台、竹籠加工台16ヶ製作。
- 1/10 高倉の森で新年会を開催。ご神木に安全新装をしました。整備、伐採をし、昔から今年の樹齢を数えました。
- 12/28 五味ヶ谷でしめ縄を製作しました。ご神木用と、参道用で、多量に納まりました。

藤小学校で焼芋作りと植樹の体験

藤小学校三年生の授業として焼芋作りと小彼岸桜の植樹に協力しました。藤小学校三年生は毎年、藤金市民の森で屋外授業を行っていて、全面的に協力しています。3月8日は3年生全員と父兄が共同して焼芋作りをし併せて小彼岸桜4本を記念植樹しました。生徒、先生、父兄、総勢100名ほどが食べる焼芋を焼くには、半切したドラム缶5個、火焚きには炎が出ないように乾燥した竹を五味ヶ谷の森から運んだり、燃焼中に破裂しないように予め割れ目をつけたりの予備作業を前日から行いました。この体験は良い思い出になるでしょう。



ほっこり村診療所にベット型ベンチを贈呈

市と社会福祉協議会、西中学校の連携で始まったベンチプロジェクトは2年目です。昨年度は老人施設・鶴ヶ島ほほえみの郷と一本松7号公園(西中学校近傍)にベンチを寄贈しました。続いて今年度は、医療型特定短期入所施設『ほっこり村診療所』に10月に2台の丸太ベンチを庭に設置したのに続いて3月22日には90×90cmのベッド型ベンチを2台搬入しました。製作に当たっては、市民の森で巨木化した樹木を間伐し、運搬し、製材し、加工し、塗装し、搬入するまでを会員の協力で実施しています。当クラブでは以前から椅子付きテーブルや簡単な丸太ベンチを多数つくり、市民の森や太田ヶ谷のグリーンパークに設置してきましたがそれらに比べると今回の作品は製材、加工に高度な技術と多くの手間をかけた作品です。施設の方々に喜ばれ大いに活用されるように願っています。

市民の森である里山の樹木は、かつては凡そ20年程度で世代交代させてきたものですが、農村からすっかり都市化してしまった現在では、それをせず巨木化、古木化し、ナラ枯れも進行しています。ベンチプロジェクトはこうした課題の一つの解決策です。



松下さんが「寺田寅彦記念賞」を受賞

会員の松下貢さんが第43回寺田寅彦記念賞を受賞されました。この賞は寺田寅彦の出身地である高知県の公益財団法人高知県文教協会が毎年行っているものです。賞の対象となった作品は、「寺田寅彦『線香花火』『金平糖』を読む」(窮理舎)です。本作品は寅彦の随筆「備忘録」所収の「線香花火」と「金平糖」の二つの科学随筆を中心に科学と文学の立場からこれを研究・解説したものです。一昨年、昨年に渡って鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会が主催したサイエンス・サロンにおいては本書の内容を分かりやすく話されていたので本書をお読みになるとより理解が深まると思います。明治期の寺田寅彦が黙示録のように暗示した科学の視点を現代に伝えようとする松下さんの情熱を感じることでしょう。是非、お勧めしたい一冊です。



編集後記

毎年1月から3月は参加者を募集するような行事はないが、それでも地味だが本来の定例作業や新規事業や飛び込み行事が発生する。それらは記事で紹介したが会員の高齢化や新規加入、各行事参加者の増加が課題になっている。高齢化とか失われた30年とか元気の出ない言葉を耳にするが言い訳をしても始まらず柔軟な発想を取り入れる必要がある。どうしたらいいのか、通信を編集するたびにそんなことを考える。

: <http://www.satoyamasupport.com/>